

日本語教育人材の養成・研修に関する概要

【Ⅰ】活動分野 国内 海外

日本語教育の対象者： 外国人技能実習生

【Ⅱ】日本語教育人材の役割 日本語指導者 ・ 日本語指導補助者 ・ コーディネーター

【Ⅲ】人材養成・研修の概要

1. 機関・団体	<p>名称：公益財団法人国際研修協力機構</p> <p>主な日本語教育事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導員向け講座(日本語指導セミナー、日本語指導ワークショップ、日本語指導オンデマンド) ・インターネットサイト「日本語教材ひろば」(教材の無料ダウンロード+情報) ・広報誌「かけはし」(年4回) 記事「日本語指導お困りですか」 ・相談対応 ・教材開発(出版物、サイト) ・日本語作文コンクール(年1回)
2. 養成・研修概要	<p>1) 研修・講座の名称：日本語指導セミナー (今回発表部分)</p> <p>2) 研修の目的及び育成しようとしている人物像：講習の日本語授業ができる人 対象：講習の日本語指導担当者。特に「非専門」の日本語指導担当者 重点： ●授業や教材のイメージをつかむ ・教材や練習方法等、「非専門」でも可能な授業の方法を具体的に知る ・実習(+具体的なコメント)を通して授業の進め方を体感的に学ぶ(理解可能な日本語) ●「私にもできそう」「がんばろう」と前向きな意欲が沸く</p> <p>3) 研修対象・受講資格：なし。また、技能実習生の日本語指導担当者の受講義務もない</p> <p>4) 受講方法：通学</p> <p>5) 研修実施時期及び期間：年8回(全国6ヶ所) 1回完結</p> <p>6) 研修実施時間数：6時間(1日) ※2015年度 207名</p> <p>7) 受講料：10,000円(JITCO 賛助会員) 13,000円</p> <p>8) 教育実習・実践演習等の有無：有り(1グループ約10分)</p> <p>9) 修了要件：当日のセミナーへの参加(大幅な遅刻早退を除く)</p> <p>10) 評価及び認定の方法：セミナー終了後に修了証交付</p> <p>11) 受講修了者の進路(活動分野)：技能実習生の日本語指導担当者(主に講習)</p>
3. 養成・研修の 科目一覧	<p>科目(指導項目)一覧を記載してください。その際、次ページの平成12年「日本語教員養成において必要とされる教育内容」の区分①～⑩のどこに該当する(もしくは内容的に近い)か、番号を記載してください。当てはまらない場合は★を記載してください。既成のシートに番号・★を追記いただくことも構いません。</p> <p>例) 【理論編】ファシリテーション(★) 【実践編】フィールドワーク実習(⑩)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 講習の日本語指導のポイント 約80分 ②③⑩⑫ 2 講習の日本語指導計画 約60分 ⑩ 3 インターネットサイト「JITCO 日本語教材ひろば」とサイト内教材の紹介 約15分 ⑩⑫ 4 「聞く」「話す」力をつけるための教室活動 約100分 ⑩ 5 授業実習 ～「技能実習生のための日本語 みどり」を使って～ 準備等 実習10分×班 ⑩

4. 養成・研修の内容		平成 12 年の「日本語教員養成において必要とされる教育内容」に含まれるもの ※実施していないものを取り消し線で消してください。(例, 文明, 哲学) 追加科目を【 】に記載してください。		
領域	区分	区分(①~⑫)	内容	
社会・文化・地域に関わる領域	社会・文化・地域	①世界と日本	歴史, 文化, 文明, 社会, 教育, 哲学, 国際関係, 日本事情, 日本文学【 】	
		②異文化接触	国際協力, 文化交流, 留学生政策, 移民・難民政策, 研修生受入政策, 外国人児童生徒, 帰国児童生徒, 地域協力(精神衛生)【 】	
		③日本語教育の歴史と現状	日本語教育史, 言語政策, 教員養成, 学習者の多様化, 教育哲学, 学習者の推移, (日本語試験), 各国語試験, 世界各地域の日本語教育事情, 日本各地域の日本語教育事情【 】	
	言語と社会	④言語と社会の関係	ことばと文化, 社会言語学, 社会文化能力, 言語接触, 言語管理, 言語政策, 言語社会学, 教育哲学, 教育社会学, 教育制度【 】	
		⑤言語使用と社会	言語変種, ジェンダー差・世代差, 地域言語, 待遇・ポライトネス, 言語・非言語行動, コミュニケーション・ストラテジー, 地域生活関連情報【 】	
		⑥異文化コミュニケーションと社会	異文化需要・適応, 言語・文化相対主義, 自文化(自民族)中心主義, アイデンティティ, 多文化主義, 異文化間トランス, 言語イデオロギー, 言語政策【 】	
	言語と心理	⑦言語理解の過程	言語理解, 談話理解, 予測・推測能力, 記憶, 視点, 言語学習【 】	
		⑧言語習得・発達	幼児言語, 習得過程(第一言語・第二言語), 中間言語, 言語喪失, バイリンガリズム, 学習過程, 学習者タイプ, 学習ストラテジー【 】	
		⑨異文化理解と心理	異文化間心理学, 社会的スキル, 集団主義, 教育心理, 日本語の学習・教育の情意的側面【 】	
	教育に関わる領域	言語と教育	⑩言語教育法・実習	実践的知識, 実践的能力, 自己点検能力, (カリキュラム, コースデザイン, 教室活動, 教授法, 評価法, 学習者情報, 教育実習, 教育環境, 地域別・年代別日本語教育法, 教育情報, ニーズ分析, 誤用分析, 教材分析)・開発【 】
			⑪異文化間教育・コミュニケーション教育	異文化間教育, 多文化教育, 国際・比較教育, 国際理解教育, コミュニケーション教育, スピーチ・コミュニケーション, 異文化コミュニケーション訓練, 開発コミュニケーション, 異文化マネージメント, 異文化心理, 教育心理, 言語間対照, 学習者の権利【 】
			⑫言語教育と情報	教材開発, (教材選択), 教育工学, システム工学, 統計処理, メディアリテラシー, 情報リテラシー, マルチメディア【 】

	言語に関わる領域	言語	⑬言語の構造一般	一般言語学, 世界の諸言語, 言語の類型, 音声的類型, 形態(語彙)的類型, 統計的類型, 意味論的類型, 語用論的類型, 音声と文法 【 】
			⑭日本語の構造	日本語の系統, 日本語の構造, 音韻体系, 形態・語彙体系, 文法体系, 意味体系, 語用論的規範, 表記, 日本語史 【 】
			⑮言語研究	理論言語学, 応用言語学, 情報学, 社会言語学, 心理言語学, 認知言語学, 言語地理学, 対象言語学, 計量言語学, 歴史言語学, コミュニケーション学 【 】
			⑯コミュニケーション能力	受容・理解能力, 表出能力, 言語運用能力, 談話構成能力, 議論能力, 社会文化能力, 対人関係能力, 異文化調整能力 【 】
※3領域5区分以外については, こちらに記載してください。	その他	【 】	【 】	
5. 特徴的な内容	貴団体に養成する日本語教育人材の活動分野及び役割に対して, 特徴的な内容や近年の変化・変遷がありましたら, 記載をお願いします。			
	<p>■特徴的な内容:</p> <p>多くの日本語指導担当者にとって、日本語指導は日常業務の一部である。 対技能実習生の業務も、日本語指導に限らず、技能実習生の日本での生活(仕事を含む)に全面的に関わっている。</p> <p>■近年の変化:</p> <p>中国人技能実習生の減少とベトナム人技能実習生の増加に伴う「通訳」確保の困難</p>			

<p>6. 育成する日本語教育人材に求められる資質・知識・能力</p> <p>※御参考:平成12年「日本語教育のための教員養成について」の「日本語教員として望まれる資質・能力」別添</p>	<p>1) 資質 2) 知識 3) 能力 について平成12年報告に示された, 下記内容について該当する場合は, □に☑を付けてください。また, 活動分野及び役割別の 1) 資質 2) 知識 3) 能力 については, □以下に記載をお願いします。</p> <p>1) 資質</p> <p><input type="checkbox"/>日本語ばかりでなく広く言語に対して深い関心を有している</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>▲鋭い言語感覚を有している</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>▲国際的な活動を行う教育者として, 豊かな国際的感覚を有している</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>▲国際的な活動を行う教育者として, 豊かな人間性を備えている</p> <p><input type="checkbox"/>日本語教育の専門家として, 自らの職業の専門性を有している</p> <p><input type="checkbox"/>日本語教育の専門家として, 自らの職業の意義についての自覚と情熱を有している</p> <p>●粘り強く練習につきあうことができる</p> <p>●技能実習生に対して対等な立場で接することができる</p> <p>●技能実習生の状況に応じて励ますことができる</p> <p>2) 知識</p> <p><input type="checkbox"/>外国語や学習者の母語(第一言語)に関する知識</p> <p><input type="checkbox"/>対照言語学的視点からの日本語の構造に関する知識</p> <p><input type="checkbox"/>言語使用に関する知識</p> <p><input type="checkbox"/>言語発達に関する知識</p> <p><input type="checkbox"/>言語の習得過程に関する知識</p> <p><input type="checkbox"/>日本の教育制度に関する知識</p> <p><input type="checkbox"/>日本の歴史・文化事情に関する知識</p> <p><input type="checkbox"/>諸外国の教育制度に関する知識</p> <p><input type="checkbox"/>諸外国に歴史・文化事情に関する知識</p> <p>●技能実習制度に関わる知識</p> <p>3) 能力</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>▲日本語を正確に理解し的確に運用できる能力</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>●言語教育者として必要とされる学習者に対する実践的なコミュニケーション能力</p> <p><input type="checkbox"/>外国語や学習者の母語(第一言語)に関する知識, 対照言語学的視点からの日本語の構造に関する知識, 言語使用や言語発達及び言語の習得過程等に関する知識を活用する能力</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>●学習者のニーズに関する的確な把握・分析能力</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>●教育課程の編成, 授業や教材等を分析する能力</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>●教育課程の編成, 授業や教材等に対する総合的知識と経験を教育現場で実際に活用・伝達できる能力</p> <p>●技能実習生ができるだけ理解可能なように日本語をコントロールして使うことができる</p> <p>●技能実習生の日本語運用力向上を目指した授業活動を企画・実践することができる</p> <p>●技能実習生の現実をふまえて教科書等から授業内容を取捨選択できる</p> <p>●技能実習の現場から学習が必要な日本語表現等を拾い出すことができる</p>
--	---

7. 養成・研修を担当する講師の資格要件や選定基準	なし 現在のセミナー担当者は、JITCO 職員（常勤）1名と、元 JITCO 日本語指導アドバイザー（2名が交代で担当）で、両者ともいわゆる「有資格者」である。
8. 現行の養成・研修プログラムの実施による成果・効果	技能実習生の日本語習得状況に配慮して接することができる日本語指導担当者やその他関係者を増やすことに貢献している。
9. 現行の養成・研修プログラムにおける課題（改善を検討したい点）と展望	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受講者数 <p>【展望】</p> <p>日本語指導担当者に限らず、広く技能実習関係者に対して、技能実習生の日本語学習の必要性と同時に、日本人側の配慮の必要性をより周知していくための情報発信を続けたい。</p>
10. その他 (人材養成・研修に関する御意見・御要望などありましたら、記載してください。)	

公益財団法人 国際研修協力機構
JITCO

能力開発部援助課 専門役
黒羽千佳子
kuroha.chikako@jitco.or.jp

発表の流れ

- 1 技能実習制度と日本語
(1)制度の概要
(2)技能実習生
(3)講習
(4)JITCOの日本語教育関連支援
- 2 調査票に沿って 調査票

1 (1) 制度の概要

趣旨 途上国への技能移転
経済発展を担う人材育成

関係省庁 法務省、外務省
厚生労働省、経済産業省
国土交通省、農林水産省

職種 74職種 133作業
金属、繊維、農業、建設、食料品…

技能実習の流れ



1 (2) 技能実習生

約20万人 (1年目~3年目)
18歳以上 (20代~30代中心)
单身
中国、ベトナム、インドネシア、
フィリピン、タイ…
募集 → 選考
入国前日本語学習 (3~6ヶ月程度)

技能実習生のすがた

- ・日本語を介して技能を学ぶ
- ・帰国する人 (最長3年)
- ・限定的な年齢層
- ・单身
- ・限定的な国籍
- ・周囲の関係者のケア
- ・入国時に日本語学習歴あり
- ・津々浦々

日本語学習歴ありだが…

入国時にできること
簡単な挨拶
丸暗記の自己紹介
鸚鵡返しの「わかりました」

まず求められる力
「聞く」指示、数字、普通体 …
「話す」挨拶、返事、報告、質問、
言いたいことが言える …

1 (3) 講習

入国直後 約170時間(7～8時間/日)

法務省入国管理局の指針 2009年12月

- 1 日本語
- 2 本邦での生活一般に関する知識
- 3 技能実習生の法的保護に必要な情報
- 4 本邦での円滑な技能等の修得に資する知識

日本語教育の重要性技能実習生の入国・在留資格に関する指針 2009年12月法務省入国管理局

技能実習の活動の主な目的は、
実習実施機関が有する技能等を
技能実習生が修得することであり、
技能実習が行われる現場においては、
日本語による指導やコミュニケーションが
行われるのが通常ですから、
実習実施機関において
技能実習を効果的かつ安全に行うためには
日本語教育を充実させる必要があります。



日本語教育の重要性技能実習生の入国・在留資格に関する指針 2009年12月法務省入国管理局

また、技能実習生は
我が国で生活するわけですから、
技能実習の基盤となる
日常生活を円滑に送るためにも
日本語教育は必要です。
入国当初の時点で講習を行い、
技能実習生が 技能実習の遂行や
日常生活に不自由しないレベルに達する
ことが望まれます。
監理団体は、そのための十分な体制と
講習計画を整えなければなりません。

講習の日本語指導

- ・ “日本語学校”に依頼
- ・ 監理団体の職員

日本語指導担当者（監理団体）

- ・ ない ①日本語教育関連の学習経験
＝外国人の視点の日本語
- ②日本語教育の現場を見た経験
- ③共通言語 …「通訳」の確保
- ④時間的・経済的ゆとり
- ・ 希望してなったわけでもない
- ◆外国語学習経験、言語教育観

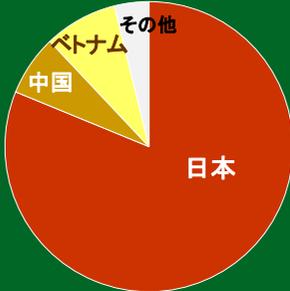
1 (4) JITCOの日本語教育関連 支援

- ・日本語指導セミナー (年8回)
- ・日本語指導ワークショップ(年2回×2種)
- ・日本語指導オンデマンド (講習後も)
- ・日本語教材ひろば (入国前も)
- ・広報誌「かけはし」内記事 (年4回)
- ・相談対応、教材開発
- ・日本語作文コンクール (年1回)

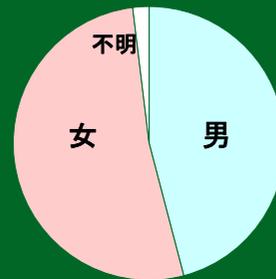
日本語指導セミナー 6時間

「講習」の日本語指導に焦点

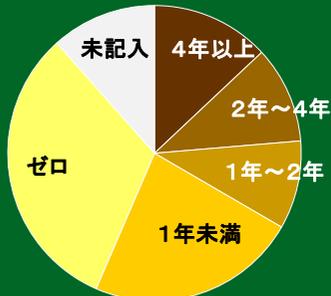
日本語指導セミナー受講者



日本語指導セミナー受講者



日本語指導セミナー受講者



日本語指導セミナー 6時間

既習事項が「使える」ように

- 概説 + 指導計画
- ・ 目標設定
- ・ 時間割
- 体験・イメージ作り
- ・ ドリル、デモ授業、小道具、教材紹介
- ・ 授業実習 + コメント

チェックシート

技能実習生がわかる日本語で指示を出す

2 養成・研修概要

2) 研修の目的および育成しようとしている人物像

- 目的
講習でよりよい日本語指導を行う
- 育成しようとしている人物像
非専門だが日本語授業ができる人

2 養成・研修概要

2) 研修の目的および育成しようとしている人物像

- 日本語指導のイメージをつかむ
 - 「教案」がわりの教材
 - プロデューサー的視点での授業
 - 具体的なアイデア
 - 実習 → 具体的なコメント
 - 技能実習生が理解可能な日本語
- 「私にもできそう」「がんばろう」と
思える

日本語指導ワークショップ 3時間

- はじめての日本語指導 (2016年度)
小道具 作成と使い方の練習
- 日本語文法入門 (2016年度)
動詞文・名詞文・形容詞文
て形、「ている」の色々…
- 身近なものを使った指導 (過去の例)
レアリア+タスクシート

2 調査票に沿って

調査票

1 機関・団体

2 養成・研修概要

3 養成・研修の科目一覧

4 養成・研修の内容

5 特徴的な内容

6 育成する日本語教育人材に求められる 1) 資質

- 日本語ばかりでなく広く言語に対して深い関心を有している
- ▲ 鋭い言語感覚を有している
- ▲ 国際的な活動を行う教育者として、豊かな国際的感覚を有している
- ▲ 国際的な活動を行う教育者として、豊かな人間性を備えている
- 日本語教育の専門家として、自らの職業の専門性を有している
- 日本語教育の専門家として、自らの職業の意義についての自覚と情熱を有している
- 粘り強く「練習につきあう」ことができる
- 技能実習生に対して対等な立場で接することができる
- 技能実習生の状況に応じて励ますことができる

6 育成する日本語教育人材に求められる 2)知識

- 外国語や学習者の母語（第一言語）に関する知識
- 対照言語学的視点からの日本語の構造に関する知識
- 言語使用に関する知識
- 言語発達に関する知識
- 言語の習得過程に関する知識
- 日本の教育制度に関する知識
- 日本の歴史・文化事情に関する知識
- 諸外国の教育制度に関する知識
- 諸外国に歴史・文化事情に関する知識

● 技能実習制度に関する知識

6 育成する日本語教育人材に求められる 3)能力

▲ 日本語を正確に理解し的確に運用できる能力

● 言語教育者として必要とされる学習者に対する実践的なコミュニケーション能力

□ 外国語や学習者の母語（第一言語）に関する知識、対照言語学的視点からの日本語の構造に関する知識、言語使用や言語発達及び言語の習得過程等に関する知識を活用する能力

● 学習者のニーズに関する的確な把握・分析能力

● 教育課程の編成、授業や教材等を分析する能力

● 教育課程の編成、授業や教材等に対する総合的知識と経験を教育現場で実際に活用・伝達できる能力

● 技能実習生ができるだけ理解可能なように日本語をコントロールして使うことができる（構文、語彙、スピード、発音…）

● 技能実習生の日本語運用力向上を目指した授業活動を企画案・実践することができる（プロデューサー的視点）

● 技能実習生の現実をふまえて教科書等から授業内容を取捨選択できる

● 技能実習の現場から学習が必要な日本語表現等を拾い出すことができる

7 養成・研修を担当する講師の

資格要件や選定基準

なし

- ・ JITCO職員(常勤) 専門役
- ・ 元JITCO日本語指導アドバイザー

いわゆる「有資格者」が担当

8 現行の養成・研修プログラムの実施による成果・効果

技能実習生の日本語習得状況に配慮できる日本語指導担当者や、その他関係者を増やすことに貢献している

関係者・周囲の人

上司、同僚

「日本語ができなくて困る」

「郷に入れば郷に従え」

9 現行の養成・研修プログラムにおける課題と展望

課題

・ 受講者数（2015年度 約200名）

・ 「周囲の人」への情報発信

日本語の重要性（メンタル面も）

日本語の重要性 + 技能実習生の現実

9 現行の養成・研修プログラムにおける課題と展望

展望

発信し続ける → 理解ある人の増加

- ◆ “日本語の重要性” と “日本語ができなくても” の両輪
- ◆ 「技能実習生」と「周囲の人」の間に **日本語の重要性** + **技能実習生の現実**

日本語指導オンデマンド

- ・ セミナー、ワークショップの出張版
- ・ 日本語授業クリニック
- ・ 日本人従業員のための わかりやすい日本語の話し方

10 その他

「豊かな(人間性)」「的確に(運用できる)」等の表現は、指標として使用する場合、判断が難しい

H25年度成果物「指導力評価項目」と今年度の「養成」との “関連づけ”

ありがとうございました

